



『西原町史』発刊に向けて⑥

沖縄の短い秋の季節がやってきました。過ごしやすい時間を使って皆さんはどんな秋にしますか？ スポーツの秋、食欲の秋、そしてもちろん読書の秋もお忘れなく!!



さて、今回の町史だよりでは、現在編集作業を進めている『西原町史』『西原村戦後新聞記事目録(仮題)』から、一九四五(昭和二十)年八月〜一九四六(昭和二十一年)年八月(二年間)の新聞記事見出しと、その内容について紹介していきます。

【見出し表について】

- ①見出しは、『縮刷版 うるま新報 第一巻』(不二出版 発行)より西原に關係する記事を抜き出したものです。
- ②漢字は旧漢字を常用漢字に改めて使用しています。
- ③見出しの後に()を付け、内容を補足しています。

年月日	見出し
1945年 11月7日	市域と人口
1946年 1月16日	通信部より(通信部で郵便物を保管中)
1946年 4月10日	市町村長任命(西原村 玉那覇良信)
1946年 6月28日	コザ地区の村長に聞く/今や我が村に暮らすうれしや
1946年 7月19日	コザ地方総務解消
1946年 8月2日	西原の移動近く完了

「市域と人口」の記事では、その当時の区割りと人口が記されており、西原村は古謝市に入っています。古謝市(胡差市とも記された)は、一九四五(昭和二十)年九月から同年十二月に米軍政府が制定した難民収容地区でした。一九四五(昭和二十)年九月に地方行政緊急措置要綱が公布されて市制を施行し、西原村は同年十月に宜野湾村、浦添村、中城村、北谷村、読谷山村、越来村とともに古謝市に編入されました。しかし、避難民の移動が始まり、同年十二月に市制は廃止となりました。「コザ地区の村長に聞く」では、収容地区から帰還した村々の村長の抱負を掲載しています。西原村長玉那覇良信氏は、皆元気で村の建設は順調であることを述べています。「西原の移動近く完了」の記事では、西原村の住居が

近く完了し、近日中に各収容地区から我謝、棚原、幸地への集団移動がはじまることを伝えていきます。

このように、新聞記事から当時の西原村の人々の動きが分かります。皆さんもあの時代はどうだったかな?と調べたいときに新聞を利用してみてはいかがでしょうか。

※見出し 新聞・雑誌などで内容の要点がひと目で分かるように、本文の前につけた短い語句(活字が本文より大きい)

【参考文献】『縮刷版 うるま新報 第一巻』(不二出版発行)／『地方自治七周年記念誌』(沖縄市町村長会発行)／『コザ市史』(コザ市発行)／『沖縄県の地名』(平凡社発行)／『新明解国語辞典 第四版』(三省堂発行)



資料収集にご協力ください!

西原町立図書館 町史編集係では、町内に関する資料の収集を行っています。

<主な収集資料>

- ・写真(古写真、人物、風景、まつり、町行事) ・地図
- ・辞令書 ・文書 ・石碑 ・沖縄関係新聞資料



大正末期ごろの家族写真
(呉屋亀三氏 提供)

このような資料がありましたら、
西原町立図書館 町史編集係までご一報ください。